

学校の概要（平成15年4月現在）

東かがわ市立引田小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	1	1	2	1	2	2	2	11	19
児童数	33	36	43	38	48	47	2	247	

実践研究の概要

1 主題

確かな学力を身に付けさせるための分かる授業の創造
- 個に応じた指導の在り方

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年を対象学年とし、少人数指導研究を算数科において実施する。

1学年	算数	3.6時間/週	少人数指導	2グループに分割し原則として習熟度別指導
2学年	算数	4.7時間/週	少人数指導	2グループに分割し原則として習熟度別指導
3学年	算数	4.5時間/週	少人数指導	3グループに分割し原則として習熟度別指導
4学年	算数	4.6時間/週	少人数指導	2グループに分割し原則として習熟度別指導
5学年	算数	4.6時間/週	少人数指導	3グループに分割し原則として習熟度別指導
6学年	算数	4.4時間/週	少人数指導	4グループに分割し原則として習熟度別指導

原則として各学年の算数は習熟度別授業の実施としているが、児童の発達段階に応じてグループ選択能力の育成と相まって順次実施していくこととする。

算数科の教材内容によって、課題別グループ分けや方法別グループ分けを採用するが、あくまで習熟度別学習よりも効果的と明らかに判断できる場合に実施する。

算数科の学習内容が基礎学力の中核部分をなすものであり、さらに、次学年への影響が最も顕著に見られると判断する。

算数科の基礎学力を向上させるとともに確実に定着させることが、現在の本校では最も必要であると考ええる。

指導した結果の集積と研究成果についてのデータ的判定も容易に且つ客観的に判断できると考える。

(2) 年次ごとの計画

平成十四年度

テーマ 確かな学力を身に付けさせるための個に応じた指導の在り方

仮説 分かる学習が可能となる少人数授業や個に応じたきめ細かな指導を実施することにより、児童に基礎学力が定着し、児童が学習に対する意欲を持ち、積極的に取り組む学習が成立する。

仮説 児童の状況を多方面から把握する複数教員による多様な評価を実施することにより、児童に多様性のある評価と個に応じた指導が可能となり、児童の学習意欲を導き出し意欲的に取り組む学習が展開できる。

仮説 地域の人々や保護者に対し学校の取組や学習状況等をきめ細かく伝え連携を図ることにより、児童に対する声援と後押しを得ることができ、児童の学習に対する意欲化を図り、確かな学力を身に付けさせることができる。

研究内容

- (1) 児童の学習特性の把握
- (2) 少人数授業における成果を上げるグループの分け方の研究
単元や児童の実態に応じて等質型、習熟度別型、課題選択学習型をどのように取り入れるか。
- (3) 個に応じたきめ細かな指導
理解の進んでいる子はより伸ばし、理解の十分でない子にはよく分かる指導
教具の活用や教材の開発等楽しく学べる工夫
発展的な学習や補充的な学習の進め方
- (4) 算数科における弾力的な単元計画の作成と学年間の関連の検討、評価規準の作成と見直し
- (5) 複数教師の多様な評価による児童の個性やよさの伸長
評価方法の工夫
評価を生かした指導の改善

研究方法

- (1) 少人数授業による指導方法の工夫
今年度は算数科に重点を置き、全学年で少人数授業を行う。
ア 1, 3 学年(単学級)の算数を2グループに分け教員2人で指導。
イ 2, 4, 5, 6 学年(各2クラス, 2・5年はプラス障害児学級1クラス)の算数を3グループに分け、教員3人で指導。
国語科では、1, 3 学年をそれぞれ2グループに分け、教員2人で指導。
5 学年の理科では、1 クラスにつき教員2人で課題選択学習を指導。
- (2) 現職教育を中心に、全教職員による理論研究、授業研究。
- (3) 専門の研究機関との連携(鳴門教育大学 服部勝憲先生のご指導)
- (4) 他の学力向上フロンティア・スクールとの連携
- (5) 近隣の学校との連携(東京学芸大学 児島邦宏先生を招いての教育講演会の開催)
- (6) 家庭・地域との連携
開かれた学校として、積極的に学校の教育活動を公開し、児童理解を図り、児童の自己指導力を伸ばす。(学習参観における授業公開等)

テーマ 確かな学力を身に付けさせるための分かる授業の創造

個に応じた指導の在り方

仮説 分かる学習が可能となる少人数授業や習熟度別学習等，個に応じたきめ細かな指導を実施することにより，児童に基礎学力が定着する。さらに，児童が学習に対する意欲を持ち，積極的に取り組む学習が成立することにより確かな学力を身に付けさせることができると考える。

仮説 児童の状況を多方面から把握し多様な評価を実施することにより，児童に多様性のある評価と個に応じた指導が可能となり，児童の学習意欲を導き出し意欲的に取り組む学習が展開できると考える。

仮説 地域の人々や保護者に対して，学校の取組や学習状況等をきめ細かく伝え連携を図ることにより，児童に対する声援と後押しを得ることができ，児童の学習に対する意欲を喚起できるとともに，積極的に学習に取り組む児童が育つと考える。

研究内容

- (1) 確かな学力の定着を図る
- (2) 分かる授業・習熟度別学習の実践

研究方法

- (1) 確かな学力の定着を図る。

学ぼうとする力（学ぶ意欲を高める）の育成

- (ア) 学習課題に児童の興味・関心をひくような工夫をする。
- (イ) 自分から進んで問題を解こうとする意欲を持たせる工夫をする。
- (ウ) 学習意欲の継続を図るための工夫をする。

学ぶ力（表現力・思考力・判断力を高め，学び方を身に付ける）の育成

- (ア) 友達の意見を取り入れ，自分の思いや考えを分かりやすく伝える力をつける。
- (イ) 具体物や半具体物を操作したり，図や式を使ったりして問題を解く力をつける。
- (ウ) 筋道を立てて考え，数学的な考え方や何を求めようとしているのかが分かる力をつける。

学んだ力（知識・技能・表現処理能力を高める）の育成

- (ア) 本時の学習で分かったこと，できるようになったことが説明できる力をつける。
- (イ) 本時の基本例題の問題を解いたり計算をしたりができる力をつける。
- (ウ) 学んだ学習を発展化，応用化をすることができる力をつける。

- (2) 分かる授業の実践

コース別学習指導の特徴・工夫
児童の学習状況の対応
体験的な学習
教師の指導力の向上

発展的・補足的な学習の取組
教材分析・教材開発の工夫
評価を生かした指導

- (3) 教育課程の中に全校活動を取り入れる。

・ 計算タイム，毎週火曜日の朝の活動時間(8:00～8:15)

- (4) 日々の実践

低学年	具体物，半具体物の活用 100ます計算	小テスト 休みの時間・・・同一計算，同一問題 (遅れて進む子)
中学年	筋道を立てて考える力 20ます計算	日常生活や学習の場において活用する 友達と互いに学びあう活動
高学年	復習テスト 文章問題 つまずきの内容を克服するためのテスト	中学年の学習内容を確認するテスト プレテスト

- (5) 外部講師を招いての提案授業

テーマ 確かな学力を身に付けさせるための分かる授業の創造

仮説 分かる学習が可能となる少人数授業や習熟度別学習等，個に応じたきめ細かな指導を実施することにより，児童に基礎学力が定着する。さらに，児童が学習に対する意欲を持ち，積極的に取り組む学習が成立することにより確かな学力を身に付けさせることができると考える。

仮説 児童の状況を多方面から把握し多様な評価を実施することにより，児童に多様性のある評価と個に応じた指導が可能となり，児童の学習意欲を導き出し意欲的に取り組む学習が展開できると考える。

仮説 地域の人々や保護者に対して，学校の取組や学習状況等をきめ細かく伝え連携を図ることにより，児童に対する声援と後押しを得ることができ，児童の学習に対する意欲を喚起できるとともに，積極的に学習に取り組む児童が育つと考える。

研究内容

- (1) 確かな学力の定着を図る
- (2) 分かる授業，できた喜び，ともに伸びる習熟度別学習の実践

研究方法

- (1) 確かな学力の定着を図る。
 - 学ぼうとする力（学ぶ意欲を高める）の育成
 - (ア) 学習課題に児童の興味・関心をひくような工夫をする。
 - (イ) 自分から進んで問題を解こうとする意欲を持たせる工夫をする。
 - (ウ) 学習意欲の継続を図るための工夫をする。
 - 学ぶ力（表現力・思考力・判断力を高め，学び方を身に付ける）の育成
 - (ア) 友達の意見を取り入れ，自分の思いや考えを分かりやすく伝える力をつける。
 - (イ) 具体物や半具体物を操作したり，図や式を使ったりして問題を解く力をつける。
 - (ウ) 筋道を立てて考え，数学的な考え方や何を求めようとしているのかが分かる力をつける。
 - 学んだ力（知識・技能・表現処理能力を高める）の育成
 - (ア) 本時の学習で分かったこと，できるようになったことを説明できる力をつける。
 - (イ) 本時の基本例題の問題を解いたり計算をしたりができる力をつける。
 - (ウ) 学んだ学習を発展化，応用化をすることができる力をつける。
- (2) 分かる授業，できた喜び，ともに伸びる習熟度別学習の実践
 - 発展的学習の教材開発等
 - 興味を持たせる教材開発等
 - 自己評価から次の目標を持たせる指導
 - 子どもが自立して学習ができるようにする
 - 教師の支援とは
 - 計算タイムや全校での取組，家庭学習の仕方等

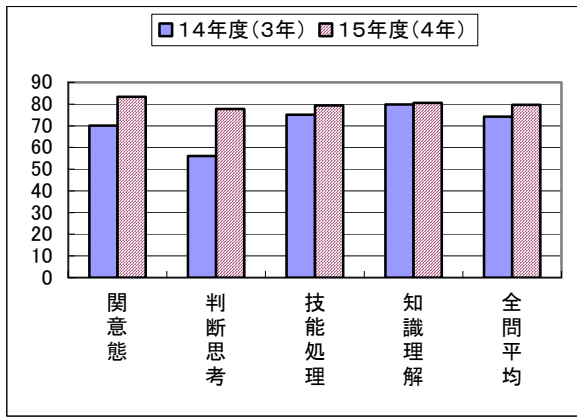
(3) 研究推進体制

- ・ 研究の中心として現職教育推進委員会を置き，計画・立案・調整を行い研究の推進を図る
- ・ 上学年部会（4年・5年・6年）と下学年部会（1年・2年・3年）に分かれて授業研究を行い，学習指導や学習方法の研究を深めるとともに，学習教材の開発・工夫に努める。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

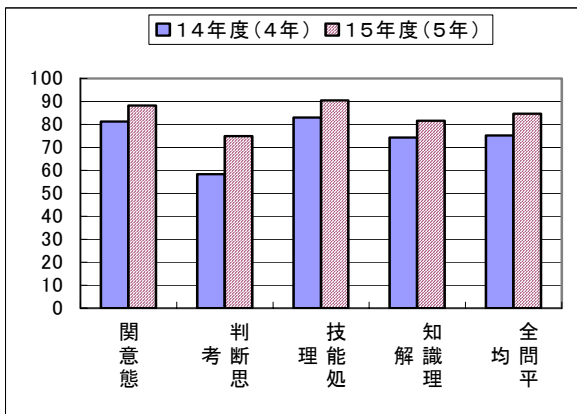
1 研究成果

(1) 算数科学習状況調査観点別における同一児童の14年度と15年度の比較を行った。



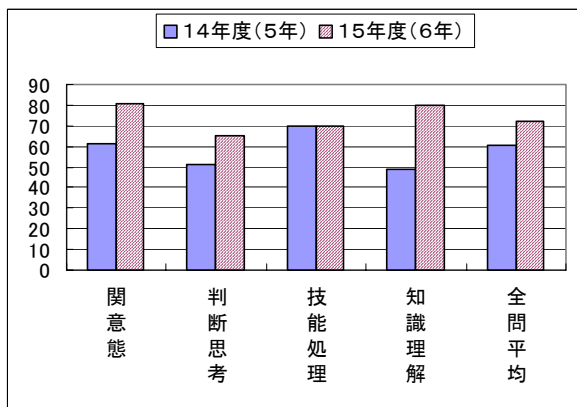
「考察」

昨年度に比べて、関心意欲態度・判断思考・技能処理・知識理解ともに点数が高くなっている。特に、判断思考については、一番点数が上がっている。また、全体平均も多少ではあるが昨年を上回っている。



「考察」

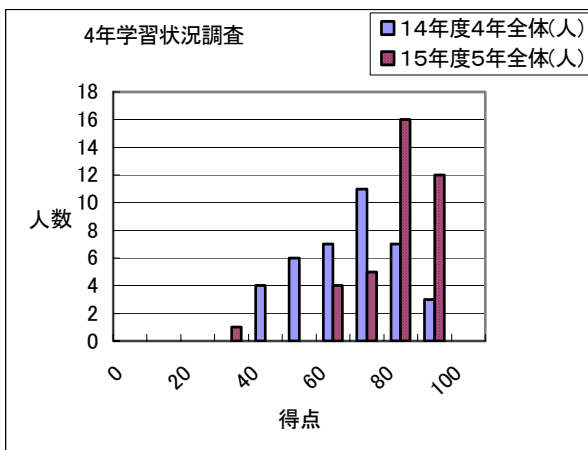
昨年度に比べて、関心意欲態度・判断思考・技能処理・知識理解ともに点数が高くなっている。全体平均は80点を超え、特に、関心意欲態度と技能処理の点数が90点近くあり、計算力がさらに向上したと考えられる。



「考察」

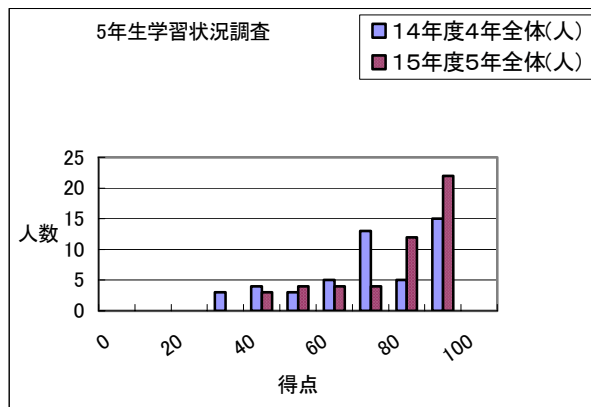
昨年度に比べて、関心意欲態度・判断思考・知識理解の点数が高くなっている。特に、知識理解に関しては、20点以上も高くなり、学習内容の理解度が高くなったと考えられる。全体平均も昨年度より高くなっているが、目標の80点には到達していない。

(2) 算数科学習状況調査における同一児童の14年度と15年度の比較を行った。



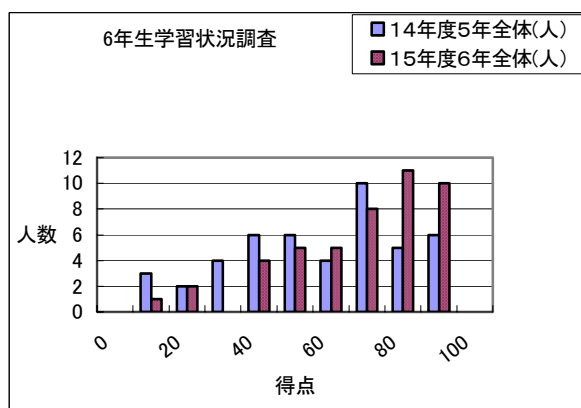
「考察」

昨年度に比べて上位集団に属する児童の人数が増えてきた。また、下位集団に属する児童はほとんどいなくなり、学力の二極化が見られなくなったと考える。



「考察」

昨年度に比べて下位集団に属する児童の人数が減ってきた。また、昨年度は中位層に属していた児童が上位集団に属し、上位集団に属する児童が多くなったことから、学力の向上が見られたと考える。



「考察」

昨年度に比べて下位集団に属する児童が少なくなり、上位集団に属する児童が増えてきたことから、学習内容の理解度が高くなったと考える。しかし、得点の散らばりが大きく、特に、下位集団に属する児童に分かる授業の実践をさらに進めなければならない。

2 今後の課題

(1) 教材・教具について

児童全員が興味を持ち、問題解決をしていけるような教材開発をしなければならない。

(2) 計算や計算練習について

基礎・基本を確実に定着させるためには、全校生で取り組んでいる朝の計算タイムや放課後の個別指導、家庭学習にもっと力を入れて取り組まなければならない。

(3) 支援について

習熟度の低い児童へのさらなる支援のあり方を研究しなければならない。

児童の考えを深められる交流をさせるための指導や支援の在り方を研究しなければならない。

(4) 評価について

効果的な評価の在り方と評価を生かした指導の在り方を研究しなければならない。

学力等把握のための学校としての取組

- ・定期的な学力調査(年1回 2月頃) ・学習状況調査
- ・漢字・計算テスト(年2回 9月と1月に実施) ・県版テスト

フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・外部講師を招いての提案授業・・・平成15年6月12日 鳴門教育大学 服部勝憲先生を招いて開催。第5学年い組,ろ組 算数 単元名「タングラムの活動を通して」参加者51名
 - ・公開提案授業・・・平成15年10月21日(13:30~16:45)第2学年い組「かけ算」第3学年い組,ろ組「あまりのあるわり算」 第4学年い組「面積」 第5学年い組,ろ組「面積」
 - 講師 香川県教育委員会事務局 東讃教育事務所 主任指導主事 安部徹様 井上光司様
 - 参加者 教職員関係42名,保護者101名,計143名
 - ・来年度の研究会の開催予定・・・平成16年11月頃(近隣の学校に参加を呼びかける。)
 - ・HP作成 (<http://www.kagawa-edu.takamatsu.kagawa.jp/hikete01/hikesyo/>)
- 次の項目ごとに、該当する個所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	14年度からの継続校	
【学校規模】	7~12学級	
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導
【研究教科】	算数	
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有